

ダム堤体下流面 補修工事

完成から35年以上経過した水資源機構管理ダムの堤体下流面の補修をCS-21工法で行った。本件は、標高約850mの豪雪地帯に位置し、経年劣化や凍害などにより表面に微細なひび割れが発生しており、既存ひび割れの進展防止および新たなひび割れの発生も防止し、凍結融解抵抗性を向上させる対策工が検討された。
微細なひび割れにも浸透すること、補修後の耐久性が増すこと、部分補修しても景観に違和感がないこと、施工性に優れることなどの条件を満たす補修工法として、けい酸塩系表面含浸材が選定され試験施工を行った結果、CS-21が採用された。



堤体下流面 全景

施工数量

第1期工事

CS-21 塗布 約8,000㎡

ひび割れ注入 約 350m

第2期工事

CS-21 塗布 約5,000㎡

ひび割れ注入 約 280m

その他：断面修復など



高圧洗浄状況



CS-21 散布状況



湿潤散水状況



ひび割れ低圧注入状況